

第6回宝達志水町総合計画審議会

- 1 日時 令和元年10月10日(木) 14:00~17:30
- 2 場所 生涯学習センターさくらドーム 21 2階 視聴覚室
- 3 審議会委員

No.	団体名等	氏名	備考
1	宝達志水町区長会	山本 外志男	
2	宝達志水町老人会連合会	新田 伸吉	
3	宝達志水町民生児童委員協議会	中村 俊夫	欠席
4	宝達志水町教育委員会	北山 茂夫	
5	宝達志水町農業委員会	大山 幹雄	
6	宝達志水町文化協会	廣正 清明	
7	宝達志水町商工会	市村 昭代史	
8	公募委員	岡田 政信	
9	宝達志水町社会福祉協議会	米谷 勇喜	
10	金沢大学	宇野 文夫	
11	経済・金融評論家	津田 栄	
12	宝達志水町体育協会	寺崎 敏治	
13	石川県中能登農林総合事務所	古西 広	
14	北陸大学	南谷 直利	
15	宝達志水町PTA連合会	木全 慎一郎	
16	宝達志水町PTA連合会	赤池 大輔	
17	公募委員	前田 菜穂	
18	公募委員	西澤 小百合	

- 4 議題 (1) 基本構想(案)について
(2) 基本計画(案)について
- 5 その他
- 6 閉会

<副町長挨拶>

ご出席いただきありがとうございます。本日で第6回の審議会となり、残すところも僅かとなりました。審議がだいぶ大詰めになりましたが、最後まで活発な意見交換をよろしくお願いいたします。

○：委員発言、●：事務局及び各課回答

4. (1) 基本構想(案)について

- A委員：グラフ内の数値がどの線のもの指しているのか分かりにくい。
→●事務局：グラフ上の数字は、赤線の町独自推計のものである。
- A委員：社人研の数値も記載してはどうか。また過去の社人研の数値は消してはどうか。複数あると一般の方には分かりにくいと思われるので、記載するなら説明を手厚くすべきであろう。
→●事務局：町独自推計以外の数値も記載し、過去の社人研を削除するなど、わかりやすくするように工夫する。
- 山本会長：今の指摘について差し替えることとして、この基本構想について賛成の方は挙手をお願いします。

<過半数の委員が挙手>

- 山本会長：賛成多数となりましたので、議決させていただきます。

○：委員発言、●：事務局及び各課回答

4. (2) 基本計画(案)について

1. 誇り高き若者を育てる

- B委員：1-3について、心の教育と出てくるが、具体的にどのような内容か。道徳教育や人権の関することだと思うが、上辺だけの内容に感じる。心の教育として道徳教育やあいさつ運動をしても、十分に養われるものでないと思われる。学校教育とは効率重視になっているように思うが、心の教育を本当に謳うならば、今日よく言われるインクルーシブな形態で、例えば障害児も共に学ぶ学校教育なども取り組んでいく必要があるのではないか。基本計画に具体的に書くものではないと思うが、心の教育を強調して記載しているのに、実行する意思が感じられないので、見直して欲しい。
→●C委員：具体的には、どのような言葉があてはまると思うか。
→○B委員：人権意識のようなものかと思うが、言葉を置き換えることは簡単ではない。心の教育という言葉は広く使われているものだと思うが、深く考えられて使っているように思えない。

- D委員：心の教育とは相手を思いやることだと思うが、和を重んじる心など広く解釈できてしまうため、相手を思いやる教育など具体的に述べるのが考えられるだろう。
- 事務局：心の教育が何を指すか、整理したいと思う。
- B委員：お願いしたい。課題や方針についても掘り下げて欲しいと思う。まちにとって重要な部分なのでしっかり考えて欲しい。
- D委員：都市部にいると思いやることの大切さをよく感じる。
- B委員：まちを形作る上で重要なことだと思うので、このようにさらっと記載するのではなく、十分に考えてほしい。
- 生涯学習課：普段から教育に携わってくださるからこそ出てくる言葉かと思います。現在も本の読み聞かせであったりボランティアの皆さまの力を借りて、事業を進めている。言葉での表現が難しいと感じているが、現在も取り組んでいることも踏まえて、修正していきたい。
- 学校教育課：言葉については考えてみたい。道徳教育について、子ども達のお互いの意識を高められるような教育を進めており、また、地域の方々への思いやりについても育めるようにしていきたい。心の教育という簡単な言葉ではなく、内容が伝わるように記載を見直していきたい。
- 山本会長：内容を修正して次回示してほしい。

- D委員：学校教育の充実について、小学校の統廃合が最初から前提であるかのように書かれていると感じる。学校教育の充実という分野に、町ほどの程度関与できるのか。
- 学校教育課：小学校を旧町単位に再編することは町長の掲げている方針であり、新たな町の計画に盛り込むことが必要であると考え、記載している。
- D委員：町長の考えで記載されているのか。
- 学校教育課：町長の考えが、ある程度の民意だと考えて反映している。
- D委員：学校の統廃合が教育の充実につながるとは思えないので、どのような論理だてをしているのか疑問である。また、子育てサポートの指標について、モノの整備がメインとなっているが、相談回数などの活動内容にした方がよいのではないか。
- 健康福祉課：今後、保護者にアンケートをすることとなっており、その結果を活用することを検討したい。
- D委員：子育て世代包括支援センターの利用状況を評価してはどうかと思う。また、学校教育の項目について、指標を説明してほしい。
- 事務局：資料3は誤植であり、資料4を参照してほしい。
- D委員：自分で計画をたてて勉強している児童数は、どのように調査するのか。
- 学校教育課：学力調査でのアンケート結果を使用する。
- D委員：計画を立てている子どもと立てていない子どもがいる、という前提でやるのか。学校の教育の中ですればいい内容ではないか。計画を立てていない子どもへのフォローをしなければ学校教育の充実につながらないのではないか。

→●学校教育課：教育現場での、児童への指導が充実するようにしていきたい。

○C委員：統廃合自体を施策に挙げるのはおかしいのではないか。統廃合を含めるならば、新たな視点で学びの場を作る、というような視点を持って施策にするべきではないのか。

→●学校教育課：統廃合については議会でも議論されて決まったことである。

→○C委員：統廃合について書くことが問題ないが、学校教育の充実とつながるような内容を含めるべきであろう。

→○D委員：統廃合に対して悪い印象を持つ町民もいることから、統廃合だけを書くべきではないだろう。

→○C委員：例えば、統廃合によって新たな教育拠点ができ、地域を思う児童が増えていく、などといったような視点で書く必要があるだろう。デメリットに感じられる統廃合であるが、メリットを感じさせるようにもしなければならないので、その表記が必要であろう。

→●学校教育課：統廃合によって学校施設が充実し、児童数を確保され、多数の児童がいることでできる活動が充実するなど、学校教育には重要なことである。

→○C委員：そういった視点を先に書くべきであろう。

→●学校教育課：貴重なご指摘ありがとうございます。このような視点も踏まえて、学校教育の充実の項目を修正したい。

○E委員：私は県外在住で、数年後にUターンを考えている。基本構想（案）に「子育て環境といえば宝達志水」などと表現があるが、まちの魅力が他都市へも伝わるようにすべきであり、取組が周知されなければ埋もれてしまい、移住につながらない。また、里帰り出産を経験したが、感想は「家族がいるからよかったな」というものであった。「この町で生んで良かったな」と思えるようにすることで、新たな移住につながるだろう。学校の統廃合については、歩いて通える距離圏に学校がある環境で、地域の方や友達と触れ合えることがUターンの魅力につながるので、教育を重視するならばこういった視点も考えて欲しい。

→●学校教育課：課内でできることを検討させていただきたい。

○F委員：統廃合について、事業所の統廃合が進んでいるが、学校にその考えを持ち込むのはどうなのかと思う。人数を増やして競争原理を持ち込むことでプラスな面があることは分かるが、この町だけの独自の方針は持てないのか。宝達小学校では、先生と子供がつながり、まさにそれが心の教育であると感じられる。統廃合はやむを得ない部分があるのかもしれないが、私は良いとは思えない。

→○D委員：地域内に学校があることで、子どもの頃の思い出や地域とのつながりが生まれてくるものであろう。

→●学校教育課：宝達小学校の現状が非常に優れたものであることは認識している。しかし、統廃合はタウンミーティングなどを通して計画が策定されたものである。児

童が集まることによるメリットも多いため、ご理解をいただければと思う。

2. 未来の為に学び、楽しむ

- E委員：町の教育全般のビジョンは、誰がどのように決めているものか。
- 生涯学習課：町には教育振興計画があり、それを基に施策を進めている。
 - E委員：その中で心の教育を打ち出しているのか。
 - 生涯学習課：心の教育については、社会全般の潮流であり、本町でも取組んでいる。
 - E委員：宝達志水町ならではの方針はないのか。
 - 生涯学習課：国と町の方針がそれぞれあり、町独自の取組もある。
- C委員：2-1にある食育推進事業について、内容は一般的な内容であるが、やるべきことは給食での地元産食材の自給率向上や生産者と交流する機会を得ることで、指標に地元産食材の自給率向上を入れてはどうか。また、現在の自給率はどの程度か。
- 学校教育課：石川県内産のもので40%という数値がある。宝達志水町内だけの数値は把握していない。本町の給食の売りとして、給食センターではなく各学校で調理し、温かいものを提供していることがある。
 - C委員：宝達志水町産や能登産のものを使い、自給率を上げるような施策はできないのか。
 - 学校教育課：そのような視点は町全体にとってもメリットがあり、促進にむけて検討したい。また、地元農業へのふれあいも取組でいきたい。
- C委員：先日の新聞で宝達金山の話があったが、宝達金山までの案内看板はあるのか。
- 事務局：道中の案内看板はない。何らかの整備は進めていきたい。
 - C委員：宝達金山の歴史として、金山を作ったノウハウが県内に波及し、様々な整備がなされたことがある。そのような視点での紹介や取組みがあればどうかと思う。案内看板の整備なども施策に加えてはどうか。
- D委員：食材の産地などを学ばせることにも取組んではどうかと思う。食材はスーパーで買う時代のため、どのように生み出されているのか想像していかねばならないだろう。子どもだけでなく、大人の視点の教育としても入れてほしい。
- 2-2について、宝達志水町の歴史書を作ることはできないのか。点的な視点での教育ではなく、体系的に歴史教育をしてはどうか。
- I委員：単発になりがちな学校での文化財の視察ではなく、体系的にまちの歴史を教えるはどうか。
- A委員：全体についてだが、指標が10年計画という視点でなく、直近の対策のためのように感じる。何を最終的に目標としたいのかを見据えて指標を決める必要がある。

○G委員：1－1から感じていることだが、子どもの教育については、先生方が関わってくるものであろうから、私たちは環境づくりを考えることが役目であろう。具体的なことは学校の先生が考えるべきことではないか。

10年後の目標指標についても、達成すれば満足ということではなく、子どもたちがUターンして帰ってくるのがゴールであり、それが大事なことである。

○H委員：人口が急速に減少しており、危機的な状況である。学校教育においては、図書館が重要な役割を担う。例えば、能登でも有数の図書館を目指すなどすることで、人を集めることができるのではないか。また、スポーツ協会をいつから始動するのか。併せて学校給食については、宝達志水の評価が高いとして知られている。ルビーロマンを取り入れるなどすれば、県や北陸での1位を目指せるだろう。

宝達志水町の人口は石川県の1%であるが、面積は2%を占めている。人口を確保しながら計画的に施策を進めていかねばならないだろう。

○B委員：最大で最終的な目的は、町の自治を続けることであるだろう。同年代はまちづくりへの関心が低く、今後、自分たちがまちを作っていくのだ、という意識を高めていく必要がある。このような意識を高く持つことが、人を集める事にもつながるだろう。自治意識を持って、このような計画を作っていくことが本来の順番であろう。住民に自治意識を持ってもらい、参加してもらう方法を考えていかないと、この計画は理念としては良いと思うが、進んでいかないだろう。

→○A委員：第2回審議会では危機意識の低さから議論が始まり、その上で、この会議では行政の立場で支援できる事を考えている。そこから、全員参加、人を育てるということが書かれている。

→○B委員：方向性については間違っていないと思うが、これを10年の計画として出しても変わらないと思う。

→○A委員：行政の方針としてはこれで良いと思うが、「住民として何をするか」ということを定めなければならないと仰っているのか。

→○B委員：そうであろう。

→○A委員：それについては行政の10年計画ではなく、別に考えるべきであろう。

→○B委員：理念としては分かるが、住民が意識を変えていくべきだ、と書いておく必要があるのではないか。そうでなければ変わっていかないだろう。入れなくてもいいが、足場を固める必要がある。

→○A委員：そういう思いとして我々は集まっている。

→○B委員：計画を作ることも大切ではあるが、自分たちでやっていくという自治意識を持つことが大切である。そうでなければ、自治を維持することは無理であろう。

→●事務局：この計画をきっかけとして、住民の皆さんが盛り上がっていくことを考えていきたい。

○D委員：町内外の交流について、町外のイベントは分かるが、町内のイベントがどのような状況か考えていた。町内でも志雄や押水でいまだに分かれており、人々がつながっ

ていないように感じる。旧町単位の融和は、どのようにしたら進むのだろうか。

→●事務局：各種団体が合併し、参加者が交流するようになっている。

→○D委員：それでも住民の交流は進んでないだろう。そのような視点でお金をかけてはどうか。桜祭りがかつてあったが、全町単位でできるようなものが大切ではないか。

→○F委員：私も同様に感じる。例えば、志雄で何らかの会合をすると押水の人の集まりが悪いように感じる。中学校は既に統合したが、私は融和には3世代ぐらいかかるのではないかと思っている。

3. 全員参加のまちづくり

○D委員：中高生の海外派遣事業について書いてあるが、町内に住む外国人との交流がメインのはずではないか。また、町内の外国人との交流のためには、どこにどのような人がいるのかをしっかりと把握しておかねば、自助や公助が進まないだろう。地域の外国人と交流するような場を作ってはどうか。例えば、各国の料理を紹介してもらい料理会などが考えられる。

→●生涯学習課：青少年の国際交流事業については、成長期に多様な文化に触れられ、必要な事業と認識している。町内においても、中国やベトナムの方などと料理交流や羽咋市と協働で日本語教育を開催しており、また、防災訓練にも参加してもらっている。

→○D委員：実施しているのは分かったが、それをどれだけの人がそれを知っているのか。

→●生涯学習課：外国人が勤務している企業を通じて、案内をしている。

→○D委員：地域住民との交流はないのか。

→●生涯学習課：料理教室では地域の方にも参加いただいている。

→○A委員：今やっていることの紹介ではなく、10年後のためにやるべきことを考えて書いて欲しい。

→○C委員：金沢市や小松市で懸念されていることとして、入管法の改正で外国人労働者の家族の受け入れ基準が変わった。今後、外国人労働者の家族が増えていくと想定され、その対応が必要である。外国人の小学生、中学生の児童数は把握しているか？

→●生涯学習課：把握していない。

→○C委員：今後、増加が予測され、受け入れる必要がある。受け入れられない自治体では企業が雇用できなくなるだろう。

→○D委員：青少年の事業は素晴らしいと思うが、身近にいる外国人にも焦点を当てることが、交流の世界であろう。交流の促進については、3-1と同様に、現状の把握が必要であろう。

→●生涯学習課：外国人の把握については、町では企業とコンタクトを懇意にして、状況把握に努めたい。

- 住民課：町内には 180 名の外国人がいらっしやり、企業の研修で来ているため、家族までではない。外国人の受入れが柔軟にできるよう、対応を強めたい。
- 健康福祉課：高齢者の見守りは、民生委員や区長と連携して進めている。
- A 委員：先日の千葉県の台風被害で、市町村で住民の名簿の有無で、対応速度が異なっていたと聞く。いつ何時、何が必要になるか分からない状況で、現状把握は大切であるので、対応して欲しい。
- G 委員：外国人が畑から勝手に農作物を捕っていくなどの被害を聞いたことがあるが、よく聞くと原因が風習の違いからくることがあるので、町としては、現状把握を進めるとともに、町での生活の仕方を教える場を作り、古くからの住民との摩擦が起こらないようにするべきである。外国人との料理交流などは良い場であり、交流を進めてほしい。
- I 委員：外国人実習生は入国して 1 カ月は一応の研修は受けているので、どこまで町が担うべきか、考える必要があるだろう。一方、技術者の方は別であり、来日の理由や在日中のニーズに合わせて、それぞれに合った交流ができるようにしていく必要がある。

4. 住み続けられるまちづくり

- F 委員：今回で 6 回目の会ですが、かほく市へ移住する人が多いという話を何度もしてきた。つまり、若い人からすると魅力が少ないということであろう。私の持論としては、都市型の発想は求ないので、畑付きの耕作のできる住宅地を提供してはどうかと考えている。
- 事務局：そのような施策を実施している自治体もあるが、本町においてもどのようなものになるかは分からないが、このような視点でのメニューを考えなければならぬと考えています。
- 保健福祉課：保育所については存続させ、改修を進めている。無償化を含めて検討している。
- F 委員：自治を続けるためには人がいなければならない。子どもを産める方は限られるので、そのような方を狙った思い切った施策を検討してほしい。

- C 委員：情報通信について、5G の話題が含まれていない。高速通信は再編されるなか、ケーブルテレビの加入率で施策を語る時代ではないだろう。
- D 委員：社会情勢によっては、ケーブルテレビの廃止も視野にしなければならぬ。
- C 委員：技術者を招ける 5G を活かしたコワーキングスペースの整備など、そういった視点での人の誘致が必要であろう。
- D 委員：通信速度が速いなどの特徴があると良いだろう。一方で、町内には 4G が入らない地区もある。WiMAX では特に接続が悪い。
- 事務局：通信会社の 4G の普及率は、90%以上と言われており、概ねのエリアで利

- 用できる。5G 事業には、民間サービスのことであり具体的に施策に盛り込んでいないが、町としては早期整備に向けて前向きにバックアップをしていきたい。
- C委員：宝達山は能登方面への複数面での電波が通っており、地の利を生かしてほしい。
- A委員：10年先のことを考えると通信技術の普及は当たり前のこととなり、この地域は勝てないと思われる。
- D委員：前へ、前へ進むことは重要であろう。
- A委員：計画に書くのは良いが、それ以上に、この地域の利点となるとは、まず思えない。現在の電波の状況を考えてら当たり前ではないか。
- D委員：次の通信規格への対応は、早めに取り組むか取り組まないかで大きな差が出てくる。
- F委員：通信技術への対応は、定住促進につながるのか。
- D委員：町に残るか、残らないかの選択肢にもなるし、将来的に都市間の貧富の差が拡大すると想定されるなか、地方を選択する人の選定材料となるだろう。
- C委員：5Gの促進については、計画に入れてほしい。ケーブルテレビの加入率という指標では、若者を掴むことはできないだろう。

- J委員：合併してしばらく経つが、例えば敬老会を地区別にやっており、一体感が無くて効率も悪い。マラソン大会では、両地区を走れるようにコースを工夫した実績があるが、様々なイベントにおいて、一体的にできるようにすべきであろう。
- 健康福祉課：敬老会は参加者の輸送体系や会場の制約もあり、地区別での開催としている。
- J委員：桜祭りもなくなり、町全体でのイベントも減っている。未だに地区でバラバラのイベントもあるので、見直せないか考えて欲しい。

5～8. 一括審議

- F委員：7は町主導で行っており、8については町に任せる内容なので、5、6を中心に進めてはどうか。
- 山本会長：分かりました。
- D委員：宝達志水町のメインの産業は農林水産業でいいのか。
- 事務局：出荷額から言えば工業となるが、町のメインと言われれば農林水産業であろう。
- D委員：近年の稲作は、生産組合に委託をする流れがあり、また、農家が高齢化して生産放棄地も増えている。農業も委託が進むことにより、実際に町民が農業を担っていないとの点で、町の産業として言えなくなってくるのではないか。ブドウやイチジクといった特産品もあるが、高齢化により委託が進めば、町の産業といえる

ものがなくなる恐れがある。この流れで行けば、農業を基盤につながっていた集落が廃れていくだろう。国において集落の存続の方針が定まっていないようであるが、町としては10年後にどのような未来を描いているのか。

- 農林水産課：農業については町の特徴を活かされる分野であり、農業と観光などが連携して地産地消が進むことで、好循環が生まれることを期待している。観光面でも観光DMOを結成しており、活性化を進めていきたい。
- D委員：生産法人を制限すべきとは思わないが、生産法人と地元の人が担う農業の役割を分けておいた方がいいのではないかと。分けなければ、集落の人々と地区の地縁がなくなり、集落から人が去っていくだろう。生産法人というやり方を考えていく必要があるのではないかと。委託ではなく、集落で田を共有し、自分たちで生産するという形があってもいいのではないかと。やる気のある人は減っており、自分たちの手で担う農業の形を考えていかねばならない。
- 副町長：我が町においては、農業の活性化に向けて積極的に取り組んでいる。集落においても、生産法人化すればいいという時代ではなく、売る方に力を入れなければならないが、そのような担い手は少ない状況である。白山市の六星の様に、販売に力を入れてほしいが、そのような方が限られる状況である。集落が生き残るように働き掛けたいが、行政として強制するものではない。
- D委員：その考えでは集落が将来的に消失し、人口確保という目標と繋がらないだろう。ブドウについても後継者がいない状況であり、町としてそれぞれの農家に任せる、というスタンスでは人口減少が止まらないだろう。
- G委員：農業委員会の立場から言わせていただくと、農業委員会でも後継者探しはしており、将来の担い手については基盤整備が重要である。基盤整備が進んでいれば何らかの対策ができる。旧押水町は基盤整備が進んでおり、旧志雄町では65%程度であるが進みつつあり、この点では心配ないとは思っている。今後は集落を跨いでの連携も必要となってくるだろう。生産には施設や機械が必要で非常にコストがかかり、販売などを含め農協を活用している人もいるが、一方で、自分でやりたいという方もいる。宝達志水産の米は味も良いとの評判があるが、PR不足で知られておらず、将来性はあると思う。
- D委員：お二方の意見は分かった。農業の効率が上がり生産に係る人が減る状況なのはやむを得ないだろう。
- 副町長：生産が効率化しており、今後、農業で雇用を生むには、販売に力を入れなければならないが、そのような方は町内に少ない状況である。
- D委員：販売といってもネットが盛んであり、販売分野から生まれる雇用は限定的ではないかと。私の友人が生産法人に関わっているが雇用者は少なく、集落の中で農業に係る人が居続けた方が良いのではないかと。それは魅力のないまちと言えるだろう。
- F委員：疲弊した高齢農家が委託するのは事実であろう。
- D委員：やりたい方は高齢者でも、農業に関わってもらいたい方がいるのではないかと。

仕事をすることで生き生きと生きることができるので、何らかの係る方法を見出し、人口の維持にもつながってくるだろう。

- C委員：危機対策や危機管理という文言が減っているように感じる。宝達志水町は海沿いのため津波被害や獣害被害も規模が増えており、危機対策という言葉に入れてはどうだろうか。
- 事務局：7-1などにあるが、分かりやすいように整理します。
- C委員：なぜ危機対策という項目が抜けているのか。獣害などの被害や災害への対策は喫緊であろう。
- 事務局：基本計画は今回初めてお見せする。本町ではそれらの被害に加えて、土砂災害対策も重要である。
- C委員：総合計画は10年後につながるものなので、町民の皆さんにも分かりやすいよう、言葉選びについても気を付けてほしい。

○：委員発言、●：事務局及び各課回答

5. その他

資料6について

- D委員：SDGsとは最近出てきた言葉であるが、地方自治体はどのように対応しているのか。
- 事務局：国からの案内が全自治体にいきっており、各自治体で取り組み方をそれぞれ検討している。本町では、まだ職員や住民においても周知されておらず、土台が無い状況である。そのため、スタートラインとして、最新の計画である総合計画において、このような整理をした。
- A委員：住民に分かりやすい言葉で書くべきではないか。誰が読み手なのか考えて欲しい。
- 事務局：分かりました。
- A委員：表で整理するのは良いと思うが、体系的に危機感などの背景があって、それから各目標に広がっているように整理するなど、方法があるのではないか。
- C委員：石川県内でもSDGsの教育が行われるようになっており、総合計画に反映するのは良いことである。

以上

